

【樹木の部屋】

タブノキ（クスノキ科タブノキ属 *Machilus thunbergii*）

和名：タブノキ（榊） **別名**：イヌグス、タマグス、ヤマグス、ツママ

英名：

クスノキ目 常緑高木

原産地：日本、中国、台湾

花言葉： **花の色**：緑



←✓ 写真-1、2 タブノキ

撮影日：2019年04月12日

撮影場所：神戸市北野にて

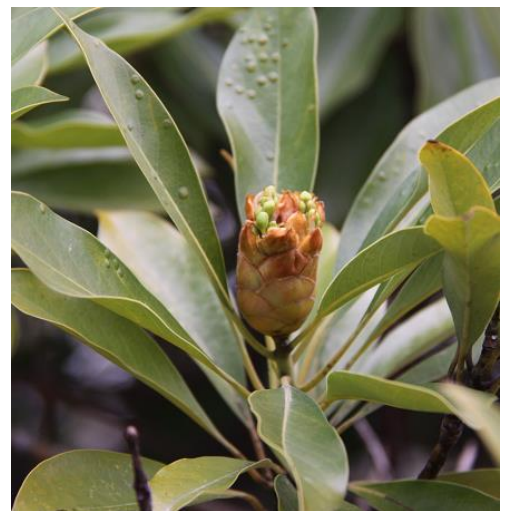
撮影者：M さん

✓ 写真-3 タブノキの蕾

撮影日：2019年04月12日

撮影場所：神戸市北野にて

撮影者：M さん



神戸市の布引ハーブ園ロープウェイ山麓駅から北野通りに至る遊歩道？の法面で見かけました。当初、ヤマモモ？と思いましたが、蕾の様子が少し違うので・・・。
ちょうど、蕾が開き始めたところでした。調べて見るとタブノキでした。

照葉樹林の代表的樹種の一つで、各地の神社の「鎮守の森」によく大木として育っているそうです。

若い枝は緑色で、赤みを帯び、横に広がります。葉は枝先に集まる傾向があり、葉

は細長い倒卵形で全縁、先端は短く尖り、基部はくさび形です。革質で表面は光沢があり裏面は灰白色です。芽は丸く膨らみます。

樹皮は淡褐色～褐色でなめらか。皮目が散財します。

花期は4～6月で、黄緑色のあまり目立たない花を咲かせ、8～9月ごろ球形で黒い果実が熟します。

枝葉には粘液が多く、乾かして粉にするとタブ粉が得られ、タブ粉は線香や蚊取線香の材料の1つ(粘結材)として用いられるそうです。また、樹皮や葉は「黄八丈」の染料に用いられ、材は、建築、家具などに使われるそうです。

名前の由来ですが、古代朝鮮語で丸木舟を表す「トンバイ」がタブに転訛したとする説が有力だそうですが、タブノキは日本書紀に登場するほど神事との関連が深く、「霊(たま)が宿る木」を意味する「タマノキ」から転訛したという説もあるそうです。

<ちょっと一言>

*黄八丈

八丈島に古くから伝わる絹織物です。タブノキ(島ではマダミと呼ばれています)の樹皮を、染料として利用したそうです。黄八丈の色は、鮮やかな黄色を主にして、樺色(かばいろ)、黒色の三色があるそうで、樺色を染めるのにタブノキの樹皮を使用するそうです。ちなみに黄色はコブナグサというイネ科の草で染め椿の灰で媒染、黒色はスダジイの樹皮を使用した染め泥汁で媒染するそうです。

それぞれの色の糸を縦横にして縞模様状に織り上げたものが「黄八丈」と呼ばれ、1977年に国の伝統工芸品に指定されています。

*樺色(かばいろ)：

JISの色彩規格では「つよい黄赤」としています。一般に、赤みを帯びた黄色のことで、橙色を少し暗くしたイメージです。